

MINATO

UNESCO

ASSOCIATION

NEWS

CALENDAR

ISSUED BY / MINATO UNESCO ASSN. 16-3. SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004 / HIROSHI NAGANO PRES. 発行所/港ユネスコ協会

〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3

TEL · FAX 03 (3434) 2233

発行人/永野博

2016年6月1日発行 第 144 号

	目	次	
P1	新任のご挨拶 永野博会長	P4	2016 年度役員 組織 事業計画
P2	2015年度ディプロマッツ・レクチャー(2016年2月)	P5	男の反撃? 三輪公忠名誉会長
Р3	2016 年度総会報告(4 月 26 日)	P6	事務局便り / 編集後記

新任のご挨拶

会長 永野 博



このたび、丹下健三初代 会長、三輪公忠第二代会長、 高井光子第三代会長という 大きな貢献をなされた方々 のあとを継ぎ、港ユネスコ 協会の会長を務めさせてい ただくこととなりました。

これまでの会長の成し遂げてこられた基盤の上に 協会のさらなる発展につとめていきたいと願ってお ります。

私は、もともとは科学技術庁という理科系官庁の 出身で、ユネスコ運動との縁はありませんでしたが、 たまたま文部科学省の成立後、日本ユネスコ国内委 員会事務総長の任につきました。

この仕事はパリのユネスコ本部と我が国の草の根 運動である民間ユネスコ運動を結びつけることを任 務とし、私にとりましては上意下達の精神の消えな い日本にあって、現場で活動する方々と接する新鮮 な驚きがありました。その一環として栃木県で開か れた関東ブロック研究会に出席する機会があり長門 芳子理事にお会いしました。これが、私が港ユネス コ協会に参加する遠因ともなりました。

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、 人の心の中に平和のとりでを築かなければならな い。」で始まるユネスコ憲章は戦争直後の日本の人々 の心を大きく揺り動かしたに違いありません。

国連加盟の5年前、そもそもサンフランシスコ講 和条約の署名よりも前の1951年6月にユネスコに 加盟したという事実は、いかに当時の多くの日本の 人々が平和のもとに新しい日本を築いていこうとし たかをうかがい知ることができます。

時代は変わりましたが、欧州における冷戦終結後 の世界は、単なる政治、経済の変動ではすまない国 際的な不安定感の拡大を招きつつあります。

一方、港区は東京の中心にあって、オリンピック も一つの契機として国際都市東京の中核に位置する ことになります。都市の発展はそこに住み、活動す る人々が気持ちよく暮らすことができるかどうかに かかっています。

港ユネスコ協会でも「平和」を核とした若者の交 流など、多くの課題があるように思えます。このよ うな状況に直面し、微力ではありますが新たな職責 に挑戦していきますので、皆様のご協力、ご支援を 心よりお願い申し上げます。

2015 年度 Diplomats Lecture

第33回 ディプロマッツ・レクチャー

日時:2016年2月29日(月) 15:00~16:30

会場:国際文化会館 樺山ルーム

¬¬¬: Asia Pacific Challenges and Chances

講師: 藤崎 一郎 (ふじさき いちろう) 氏

一般社団法人 日米協会会長

前 駐アメリカ合衆国特命全権大使



講師プロフィル

1947年生まれ。

1969年外務省入省、外務省北米局長、外務審議官、駐ジュネーブ国連機関代表部大使を経て

2008年~2012年 駐アメリカ合衆国特命全権大使

2013年一般社団法人日米協会会長 上智大学特別招聘教授、慶応大学特別招聘教授など

「ディプロマッツ・レクチャー」は年1回、在 日各国大使館および大使館員を対象に、日本外交 をより深くご理解いただくことを目的として開催 し、講師には、外務省幹部を中心とした方がたを お招きし、英語で講演をして頂いています。

港ユネスコ協会創設後間もなくから継続している大きな事業です。



第33回ディプロマッツ・レクチャーは、講師として藤崎一郎氏をお招きして開催し、5名の大使を含む大勢の外交官にご参加をいただきました。

ウイリアム・アッカーマン理事が司会を務め、髙井光子会長の挨拶の後、永野博副会長が藤 崎一郎氏の経歴等を紹介いたしました。

講演では、「政府の見解ではなく、私個人の視点です」と断りながら、主として昨年の首相談話、安保法制、沖縄、北朝鮮、中国について話されました。

Q&A の時間にはお二人の外交官から、独裁国への対処について、また韓国との慰安婦問題について質問が出ました。



藤崎氏の幅広いご経験と深い洞察に裏打ちされたお 話しは大変興味深いものでした。

東北大震災と津波から5年が経過しますが、この未 曾有の災害に際し、海外各国から受けた援助、励まし を私たちは決して忘れてはならない、とのご指摘が心 に残りました。

まとめ:国際学術委員会常任理事 宮下ゆか里

写真: 小林敬幸

2016年度総会、無事終了

日時:2016年4月26日(火) 18:30~20:00 会場:港区立生涯学習センター3階 305号室



港ユネスコ協会の総会が4月26日(火)午後6時30分から、生涯学習センター305号室(港ユネスコ協会事務局の横隣)において開催され、松本洋副会長の司会のもと進行されました。 武井雅昭区長が、過密なスケジュールの中をぬって、開始時からご列席下さいました。 会長交代については、区長様のご臨席の場で、報告されました。

武井雅昭区長からご挨拶を頂きました。

「港ユネスコ協会は、長年にわたって、国際交流事業、国際理解を深めるという港区に ふさわしい活動と、ユネスコ憲章の「平和」の理念を実現するための活動を、会員の皆様 のご協力によって、継続してこられました。

港区は昭和 60 年に「港区平和都市宣言」をしています。世界の恒久平和を望み、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めるという宣言の精神は、ユネスコと同じだと思います。



高井光子会長は、創立以来ずっと活発に活動にかかわってこられ、6年前からは会長として、リードしてこられました。その情熱と実行力に敬意を表します。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを前に、港区の役割がますます大きく求められます。永野博新会長のもと、さらなるご発展を祈念いたします。」

高井光子会長挨拶 区のご支援へのお礼と、会長交代のご報告



「当協会は35年前の創立以来、港区長様、教育委員会様のご支援、ご 指導をいただきながら、国際都市港区ならではの活動と、ユネスコ憲章に 謳われている『地球上のすべての人々の平和と幸福を実現する』という理 念に沿った活動を積み重ねてくることができました。心から感謝申し上げ ます。

6年前、会長を引き受けさせていただきましたが、本日の総会をもちま

して、新会長にバトンタッチさせていただきます。

初代会長丹下健三先生の10年、二代目会長三輪公忠先生18年の後を継ぐ三代目という大役は、 私にはとても荷が重うございました。しかし、与えていただいた素晴らしい機会に感謝しながら、 自分なりに一生懸命に務めさせていただきました。皆様のご協力に心からお礼申し上げます。

新会長には、永野博・現副会長に交代していただきます。永野博先生は、文部科学省・国際統括 官およびユネスコ国内員会事務総長、政策研究大学院大学教授など数々の要職を歴任されておられます。新会長のもと、さらに活発な活動が繰り広げられると確信いたします。引き続き、ご支援ご協力のほどどうぞよろしく願い申し上げます。」

議事内容: 2015 年度の事業報告と決算報告が承認され、ついで、2016 年度の事業計画案、事業予算案が承認され、 会則改正案も承認されました。

役員案:会長の交代と、新たな副会長4名による新体制が承認されました。(役員、委員会名、事業計画は4頁に)

港区教育委員会からは、生涯学習推進課・横尾恵理子課長、竹藤朋子係長、港ユネスコ協会担当の寺崎周子さんが ご出席下さいました。

2016 年度の役員(敬称略 五十音順 <u>下線</u>は新任)

会長 永野 博

副会長 奥村和子 菊地賢介 松本 洋 宮下ゆか里

理事 今村孝子 加固寛子 清水軍治 鈴木明美 坪谷郁子 東郷和彦

友金 守 中前由紀 永井美智子 長門芳子 原 不二子 峰尾茂克

三輪恵美子 森村俊介 山田摂子 渡部俊子

常任理事 秋山雅代 磯部豊子 小林敬幸 棚橋征一 平方一代 松崎加寿子

監事 田部揆一郎 中川統夫

名誉会長三輪公忠相談役木曽 功

相談役・理事 高井光子

顧問 明石 康 清家 篤 武井雅昭 見上良也 武者小路 公秀

2016 年度 担当委員会 事業計画案

会員開発委員会新入会員を囲む会

MUA サロン 大使館訪問 新年懇親会

広報ブレティン・インターネット 和文ブレティン 144 号~147 号

委員会 英文ブレティン 143 号~146 号

MUA web の更新維持

国際学術文化委員会 ディプロマッツ・レクチャー

シンポジウム

国際理解講演会 2~3回

募金活動:日ユ協連・東日本大震災就学支援奨学金

日ユ協連・熊本大地震こども支援募金

ミンダナオ子ども図書館支援

世界の料理委員会 世界の味文化紹介

世界の家庭料理ワークショップ 2~3回

みなと区民まつり特別委員会 みなと区民まつりへの参加

ミニバザー、パネル展示

ユース活動委員会 UNESCO ユースフォーラム in みなと 2016 開催

文化体験教室委員会 ゆかた着付けワークショップ

茶の湯体験ワークショップ 書道体験ワークショップ

語学研修委員会 英会話初級クラス 週1回開催

*委員会活動や、事業にぜひご参加ください。きっと新しい世界が広がることでしょう。

(まとめ:高井光子)



The Spirit of UNESCO

(UNESCO 憲章の前文より)

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、

人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。――

男の反撃?

名誉会長 三輪公忠



「征(2)くぞ 強者(ツワモノ) 日本男児」とウィンドーシールドに大書したトラックが都大路を往く。 平和国家日本が何か戦前日本の胡散臭さに立ち返っていくように見える。男女平等社会のなかで、 息切れしている男文化の青息吐息の一端にすぎないのだろうか。アメリカで西部の大平原が消え ていく中、大陸横断の大型トラックの運転手は現代のカウボーイなのだと言われたことがある。 男のなかの男たらんとするアメリカの男の閉ざされた世界がそこにある。そのサムライ版が「征 くぞ 強者 日本男児」なのだろう。

1960 年代の中ごろ、アメリカのプリンストン大学で私は"Nihon"を多用していた。すると日本学の大先生ジャンセ ン教授は「日本は"Nihon"ですか、"Nippon"ですか。」と私に糾した。私は先の戦争中のことを思い出しながらこう応 えた。語感から言って、「ニッポン」の方が勇ましく聞こえますから、軍国主義のあの時代には、「ニッポン」という のが普通でした。しかし戦争を放棄した平和国家には「ニホン」のほうが馴染むと思いませんか。それが私の先生へ のお答でした。

安倍政権下の最近の慣用は、はっきりと破裂音が勇ましい「ニッポン」に傾いているようである。都大路を往くあ のトラック運転手にとってあれは「ユクゾツワモノニッポンダンジ」以外の何物でも無かったろう。

三輪公忠著『ミケランジェロ裸身の神曲:聖アウグスチヌスの光の中で』(彩流社、2800 円+税)が今年 3 月 10 日発売

じめ仏独語であったものを含む、 を縦横に駆使して、ミケランジェ ロの芸術と彼のキリストによる救 済を追い求めたほとんど 90 年に わたる生涯に新しい解釈を試みた ものです。



三輪公忠作「花は咲く・・・」(M100号) 六本木の国立新美術館で開催の 第112回太平洋展(会期2016年5月11日-23日)に出品した作品です。 「私は何を残したろう…」とつづくあの魂を締め付ける歌声が耳底に響いています。

閑話休題

2011 年 3 月 11 日の大津波の映像が教えてくれた水と大地と大海の力学。大地を襲い、破壊の狼藉を働いた水が、 逆流して海に向かい、その海が、5メートルも海面を下げ、海底を曝している所へ、巨大な瀑布と成って流れ落ちる、 あれと同じ因果関係といえば、いささか大袈裟かな。いや男が「ネイチャーズ・コーリング」、和訳すれば「自然が呼 ぶ声」に応えるとき、その排出力は人為の規制を踏み散らし、解放の快感は警察権力にさえ共感をよんだのだろう。 法治の淵源は自然法に発することをあらためて確認する仕儀となったのだろう。

The International New York Times が報ずる所を解釈すればざっとこんなところか。ニューヨーク警察は「ユリネ イタ―」、 つまり「小便小僧」ならぬ大の男が公園の木陰で人目をしのんでというのでなく、堂々と繁華街の路地であ っても、とにかくニューヨーク市中の何処であろうと、今後小便を垂れる者を逮捕するに及ばずとした。ついでに大 方の遠因である飲酒もオーケーになった。もっと大事な仕事に集中せよとのことである。

昔々開国後の日本国家は西洋人の眼鏡に適うようにと、野外の放尿をご法度にした。新しい法規制とすれば、刺青 禁止と同列の処置であった。江戸火消しのみか、駕籠かきや庭師、大工など、男のいなせな紋章であった刺青がたち ションベンと同じ扱いになったのである。これに異を唱えたのが「文明開化」のイデオローグ福沢諭吉であったとい うのもおもしろい。合理主義者であった福沢は、銀座など華やいだ都会の表通りはともかくとして、田圃の畦道にま で一律に法規制する馬鹿馬鹿しさを詰ったのであった。(2016・5・8)

事務局便り

【ようこそ 新入会員】 個人会員:大庭裕美さん 島田能里子さん

【今後の行事予定】 (詳細は別途、チラシやホームページでご案内します)

☆4月13日~7月27日 英会話初級クラス 毎水曜日18:30~20:30 コース:全14回、

講師:マーク・マードック先生 会場:港区立麻布区民センター (随時受け付中)

☆6月1日 (水) 18:30~21:00 MUA 新入会員を囲む会 会場:港区立生涯学習センター304 号室

☆6月5日(日) 12:00~15:30 世界の味文化紹介「アゼルバイジャンの家庭料理」

会場:港区立男女平等参画センター「リーブラ」 料理室

講師:スーラ・ミルザエフ先生(駐日アゼルバイジャン共和国大使館一等書記官夫人)

参加費:会員:1500円 一般:2000円

☆6月25日(土) 13:30~16:00 ゆかた着付け体験教室 会場:港区立生涯学習センター203号室 参加費 500円

☆7月13日(水) 18:30~20:30 第1回国際理解講演会 会場:港区立生涯学習センター101号室 講師:中島章博氏(作編曲家・建築音響工学博士)

仮テーマ:「日本人音楽家、在オーストリア生活 (2007~2010) のエピソードより」

☆9月3日(土)・4日(日)関東ブロックユネスコ活動研究会 in 東京 会場:青山学院大学

【ご寄付、ご寄贈品など】 ご協力ありがとうございました ご寄付者お名前(敬称略)

☆ミンダナオ子ども図書館 衣料他:大谷陽子、葛西章江、鈴木明美、須田康司、高井光子、永井美智子

募金へのご協力のお願い 募金名:日本ユネスコ協会連盟 「熊本地震 子ども支援募金」

(被災した学校の子どもたちの教材や器具、遠足代、大学生によるボランティア学習支援など)

募金の送金先:港ユネスコ協会 みずほ銀行芝支店:普通0921421

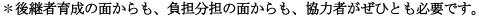
港ユネスコ協会コーアクション口:郵便振込口座 00190-4-73732

【編集後記】

- ◆ 最近「生きているうちは、人は世の中の役に立ってしまう」という面白い言葉に出会った。盗人でさえ警察官に仕事を与え、取調室にカツ丼を取り寄せて飲食店にも仕事を与えるから役に立っているとのいささか極端な例が挙げられている。しかし、どんな人も役に立つから存在意義があるのではなく、存在自体が意義があるという論であり、心が少し軽くなる。(須田康司)
- ◆ テロや難民、近隣国からの脅威など、暗いニュースが多い中で、オバマ米国大統領の広島訪問が決まったことは本当に喜ばしい報せだと思う。広島といえば、過日、米国の友人がプロデューサーとして制作に関わった「Paper Lantern」というドキュメンタリー映画を観る機会があった。原爆投下に先立つ時期に、搭乗機が広島山中に墜落したことから捕虜となった米兵が12名いたという。結局、原爆の犠牲となった彼らの足跡を、40年以上に亘って丹念に調べてきた広島の郷土史家と米兵の遺族らとの交流を描いた内容で、焼け野原に咲く野の花を見たような気がした。(棚橋征一)
- ◆ <「和文ブレティン」編集協力者、「英文ブレティン」英訳協力者> 募集いたします。
 - * 現在の「和文ブレティン」と「英文ブレティン」について、ご案内させていただきます。 和文、英文、各々、年4回発行しています。3月1日、6月1日、9月1日、12月1日が発行日です。
 - *「英文ブレティン」の編集長は、棚橋征一常任理事です。入会された 1994 年秋頃からずっと編集に関わって下さっています。「英文ブレティン」は「和文ブレティン」の英語版、つまり、1 号分遅れての発行です。 2010 年以前は、発行回数も少なく、ページ数も少なかったとのことです。

現在、英訳に関しては、棚橋征一編集長と、須田康司事務局長が担当して下さっています。

- *「和文ブレティン」は、2010 年 9 月 1 日号から、現在の形になり、編集は高井光子が担当しています。
- *「ブレティン」は、活動の記録を残すとともに、広く大勢の方がたにも関心を持っていただく役割を持っています。和文・英文ともに、「ホームページ」にもそのままの形で掲載しています。



皆様からの協力のお申出をお待ちしています。さらに、ブレティンが皆様に愛され、必要と されるように、ご意見、アドバイスもお寄せ下さるよう願いいたします。(高井光子)

